

ふるさとネット 3回目の要望書を

ガス条例撤廃などを訴えて

アンケート結果に基づいて



ふるさとネットは、高濃度地区住民等に行ったアンケートに基いて、ガス条例の撤廃などを盛り込んだ要望書を、2月3日に平野村長、石原都知事、麻生総理大臣に提出した。

ふるさとネットは2月3日、アンケートに基づき要望書を平野村長、石原都知事、麻生総理大臣に提出した。佐藤就之会長（神着）、池田金好氏（伊豆）は、

三宅島新報

隔月発行

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
 (本部) 〒100-1101
 東京都三宅島三宅村神着 320-2
 Tel. 090-4922-0798
 発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

○09年度協力者会議開催
 日時：3月30日(月)
 18:30～20:30
 場所：喫茶ルノアール会議室
 (巣鴨駅前店)

今年度の活動報告、来年度の活動等について協議します。みな様のご参加お待ちしております。

○ご寄付について
 1月31日の板橋の集いで、ご寄付して下さったみな様、ありがとうございます。

郵便振替口座
 口座番号：00120-3-545036
 口座名称：三宅島ふるさと再生ネットワーク
 事務局：あすなる保育園内
 郵便番号：173-0005
 住所：板橋区仲宿 25-6
 電話・FAX 03(3963)5697
 担当 伊藤奈穂子事務局長

要望書の内容

平野村長と面会し要望書の趣旨を説明した。二期目となる平野村政の生活再建・復興施策に期待をしながらも、なお全島避難から解除後も置き去りに等しくされた避難継続中の「帰りたくても帰れない在京者」というやく検討が始まった島内45%規制の「ガス条例」で居住・生業が禁止されている「高濃度地区」住民の切実な声を真摯に受けとめ早期に要望の実現を求めた。

- 石原知事、麻生総理には、酒井一豊副会長(前神着)、伊藤奈穂子事務局長が提出した。
- 3月2日までに文書回答を求めている。
- 「帰島5周年の集い」(3面に記事)後に行われた要望書に関する記者会見
- ① 島内住宅補修、再建、家賃減免、補助支援
 - ② 渡航費補助(島民並み割引)の要請実現
 - ③ 電気・ガス・下水道などの減免補助支援
 - ④ 各種税金・保険料の減免、補助
 - ⑤ 医療費の補助、人工透析設置、老人ホームの拡大など帰島条件整備
 - ⑥ 空路の増便、条件緩和
 - ⑦ 帰島時の村営住宅優先入所
 - ⑧ その他
- 一、在京島民要望事項は次の通り。
- ⑨ ガス条例撤廃、改善
 - ⑩ 都・村営住宅、住宅費減免、補助
 - ⑪ 保険料の減免、補助
 - ⑫ 電気・ガス・基本料金の減免、補助
 - ⑬ 税金の免除
 - ⑭ 廃屋などの解体・撤去条件緩和
 - ⑮ 火災保険など加入保障
 - ⑯ 高濃度地区再生プランを示せ
 - ⑰ 住民との対話、相談による政策決定を
- 二、高濃度地区居住者に
 都・国への要望事項
 都には住宅等15項目、
 国には、長期災害支援
 等5項目を提出
 ※詳細は折込の要望書で
 ご確認ください。

会長時評

要望書は不備な対策の告発文

真摯に受け止めてほしいその内容



「このまちは 三宅村と火山学者にすてられた」と抗議の文字、選挙のポスターも空しく映る。政治家はこの惨状にどう応える。(坪田高濃度地区の家屋玄関)

在京者と高濃度地区住民の皆さんに行ったアンケートから明らかになった救済対策の問題点を、告発、解決するために提出した3回目の要望書。「災害はまだ終わっていない」の認識のもとに、村長や議会等はその内容を真摯に受け止めてほしい。

島民として痛みの共有を

在京者と高濃度地区住民の皆さん。アンケートへのご協力に感謝いたします。

前号で自由回答の内容を別紙で紹介しましたが皆さんお読みいただけただでしょうか。これまで厳しい現状や心境が率直に語られていて良かった。早く解決をとの声も寄せ

られている。

回答は、このままでは三宅島の将来が不安。また噴火被災者の救済対策があまりにも問題を含んだままであることを浮き彫りにした。

発言の機会を九四年も与えられなかった在京者。一生で築きあげた家屋・事業所などの財産が一刻一秒の速さで破壊破損していく姿を目の前

で毎日見つめる高濃度地区住民の無念と残酷……。この痛みを同じ島民として共有できるか否かが今後の三宅島の将来を決すると言っても過言ではない。

国の補いを都や村が…

「5年半前、一緒に島を離れ、長い避難生活の苦勞を共にした島民同士だ。帰れない島民を置き去りにしない型での復興を、村はぜひ模索してほしい。」(毎日新聞、「記者の目」18年2月8日)

また今回のアンケートの取り組みを放映した東京MXテレビは11月17日に「避難解除から三年半が経ち、いまだ島に帰れずにいる人たちへの対応をどうするのか、行政の

決断が迫られています」と報じた。

マスコミ、他の被災地関係者、専門家も村と都の対応はおかしいという。国の制度の足りないところを補って被災者の生活救済をするのが自治体の役割ではないのか。

他の被災地は、東京よりも苦しい地方財政の中でも被災者の住宅、地域再生など多様な支援の努力を行っている。

望まれる「七人の侍」

村は、都営住宅入居のため転居した島民に居先の行政サービスのみに島は無関係。さらに、四年前の全島避難解除をもって噴火災害対策は終了したと強弁。一方で都道などは繰り返し工事中だが

在京者の都営住宅費、電気、水道料などの保障は早々に打ち切られた。また、ガス条例で住居と仕事場を奪った。生活権の保証や地域再生策も条例見直し廃止が無ければた

いしたことは決められない。村長と議会は要望事項を真摯に受けとめて実現してもらいたい。現在の惨状は孤立している島だから世論や政治から見放された結果かもしれない。

今回の要望書はこれらの告発書でもある。私は、東京大学大学院故廣井脩教授が偲ばれてならない。

私たちも恐れず頑張る。だから保身を捨て被災者に向き合う「七人の侍」を求めてやまない。

偲ばれる廣井教授の言葉

第3回フォーラム東京大会より

「佐藤(就之)さんの指摘で重要なのですが、いろいろな事情があつてすぐには帰れない。いずれは帰るかもしれないけれども、すぐには帰れない。こういう人たちもまだ災害が続いているわけですから、例えば都営住宅は有料になるということでは困るわけです。

ですから、2月に一応いったんは帰るけれども、災害は、まだ終わっていないよということが基本的な認識です。…これは三宅島の人たちだけでなく全国にもアピールする必要がありますが一つです。

復興に関してはやはり福崎(博孝弁護士)さんが言うように基金なのです…村の義援金受付停止が悔やまれる。

ネットメンバー神戸へ 「1.17のつどい」に参加 震災被災者の遺族等と交流

ふるさとネットのメンバー6人が、阪神淡路大震災慰霊行事である「1.17のつどい」に参加した。参加を通じて、佐藤会長は「風化させないための取り組み」について思いを新たにしたいという。

「灯り」の前で慰霊の合唱

佐藤就之会長をはじめとしたふるさとネットのメンバー6人は、1月16日に神戸に到着。その後1・17の会場である三宮の東遊園地に設置された「交流テント」内に、島の状況を伝えるためのパネルを展示した。その後テントを訪れた震災被災者の遺族などに「三宅島新報」を配布するなどしながら交流を行った。そして、地震の起きた



高校生などとともに合唱

17日の朝5時46分と、夕方同時刻には、他の参加者とともに、1・17のかたちと並べられた竹灯籠のローソクに火を灯して、黙祷を捧げ、犠牲者の霊を弔った。そのほか、17日の午前中には、震災からの思いを込めてつくられた「しあわせ運べるように」という歌を、東遊園地内にある「希望の灯り」の前で、遺族やボランティアとして参加していた向上高等学校の新聞委員たち

三宅島噴火未だ止まず



テント内でのパネル展示

とともに合唱した。さらに、同日の午後には、佐藤会長が神戸市役所前のステージに

帰島5周年 板橋の集い 「善の快」など舞台に

神戸から「HANDS」メンバーも参加

ふるさとネットが主催する「がんばれ三宅島」帰島5周年板橋の集いが1月31日に板橋区立仲宿いこいの家で行われた。「集い」には、神戸から駆けつけたHANDSの白木利周さんと中島喜

神戸から「HANDS」メンバーも参加

一さんを含め多くの人が参加。舞踊家・鶴吉さんの舞、女優の京町さんとその息子の土肥直貴君による歌と語り、NPO法人「善の快」の方々による舞や講演、落語が披露された。「集い」終了後には記者会見が開かれ、佐藤会長な



ボランティアによる華麗な舞

だが、3回目の要望書提出に関する説明を行った。

立ち、災害被災地復興支援の更なる必要性を、集まった多くの聴衆にアピールした。

伝えることの大切さ

佐藤会長は、今回つどいに参加した感想を「被災体験を風化させないためにも、このような行事は大切です。三宅島でも実施する必要性を感じています」と話

した。神戸市およびNPO団体が運営する「1・17のつどい」は今年で14回目を迎える。肉親を失った遺族の悲しみは深く、交流テントでは、今でもその悲しみは消えないという声が多く聞かれた。このイベントは、テレビや新聞などでも大きく扱われ、全国からボランティアも訪れているが、その一方で、神戸市民の関心が薄れているという現実もある。その背景には、震災から長い期間が経過したこ

とにより、市民の4割が震災を経験していない人が占められるようになっていっていることがある。このような状況の中、「つどい」を運営するNPOの一つで、震災で肉親を亡くした遺族などが参加している「HANDS」の白木利周さんは、「関心が薄れている現状はありますが、次に震災が起きたときに苦しむ人を一人でも少なくするために、我々の経験を伝えていかなければならない」と思っています。

と、ふるさとネットのメンバー6人が、阪神淡路大震災慰霊行事である「1.17のつどい」に参加した。参加を通じて、佐藤会長は「風化させないための取り組み」について思いを新たにしたいという。

楽しみながら復興支援…旅はMIYAKEへ 満喫できます！島の魅力

今年の午頭天王祭



2009年の三宅島での春夏行事予定がほぼ決定した。以下にその内容を掲載する。詳細は、★は観光協会(04994-5-1144)、☆は村役場観光振興課(5-0920)に問い合わせを。また、行事等の予定は、三宅島観光協会ホームページ(<http://www.miyakejima.gr.jp/>)にも随時掲載される。

- ★3月14日(土) 社会福祉協議会・フリーマーケット(旧・阿古小体育館)
- アカコッコ館イベント「早春バードウォッチング」
- ★3月15日(日) 御蔵島イルカツアー開始(11月15日まで)
- ★4月26日(日) 三宅島バードアイランド・フェスティバル(7月15日まで)
- ★5月17日(日) モーターサイクルフェスティバル・プレイベント(東京・お台場)
- ★6月6日(土) メガネ岩ボートダイビング解禁(6月中の土日)
- ★6月13日(土)・14日(日) 日刊スポーツ・サイクルロードレース(阿古町)

- ★6月27日(土) ダイビング・フェスティバル
 - ★7月4日(土) 「The 遠泳」2009オアシヤンスイム大会(伊ヶ谷港)
 - ★7月18日(土)・19日(日) 午頭天王祭(神着・御勢神社)
 - ★7月24日(金)・25日(土) 三宅島マリンスクーレ2009(錆ヶ浜)
- ※日程は変更される場合があります。前記の行事は前半期(7月まで)のもの。
◎一般の方は参加できませんが、次のようなイベントも行われます。
- TFC村長杯三宅島磯釣り大会(4/18)、JFGAカジキ・トロリーング大会(6/20)、三宅高校遠泳大会(7/12)、ヨット「Tokyo's Cup2009」三宅島スター

【お便り】兵庫・大島より(要約)

◎三宅島の子どもたちに青森のリンゴを届けさせて頂きましたが、三宅小ではご多忙中先生たちが、子どもたちの便りを集め、届けていただいたことを嬉しく思っています。何よりだったのは、青森県三戸弘前のリンゴ農家の皆さんに喜んで頂いたことです。「帰りたくても帰れない在京者と高濃度地区住民の救済なくして三宅島の再生・復興なし」のお考えを応援しています。※なお、「河村宗治郎—被災者であり被災者といっしょに生きてきた河村宗治郎を語る」(定価1400円・兵庫教区クリスチャンセンター内 電話078(856)4127)も頂戴しました。感謝します。(兵庫県南部地方ボランティアセンター 菅澤邦明様)

◎平常な生活を取り戻す厳しさ、本当にご苦勞の絶えない日々が続いていると思います。又、火山ガス高濃度発生という現状は、同じ火山島大島では想像すらできません。世界中で不景気の中、大島も確実にどん底になりつつあります。昨年11月1日より飛行機は1便減らされ1日1便のみ。今年6月にはバス廃止。熱海線J・Fも1便のみと決定。観光客がどんどん減ってる中、足となる交通機関が減らされては私達観光業はこれからどうなっていくのでしょうか。島であるが故なのでしょう。これからも頑張ってください。(伊豆大島 A様)

【ご寄付者名】

大石真様、山下文子様、橋本三郎様、T様、天野福久様、山形真由美様、竹中さおり様、板橋和夫様、荻野和子様、江口力様、高橋栄一様、飯田雅子様、高橋昌夫様、太田久子様、1・31集い会場寄付
(12月3日～2月14日)

編集後記

阪神淡路大震災の追悼集会に参加して、災害に対する意識を高め、後世に語り継ぐことの大切さに改めて気づきました。三宅島でも、高濃度地区などの問題がまだあります。要望書もその一つですが、問題を解決するために、多くの人に伝えることが大切だと思います。(DTPA一同)